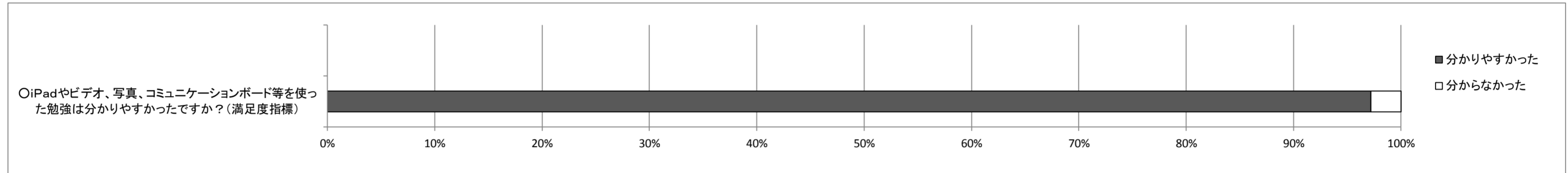


H29 学校評価総合シート 生徒

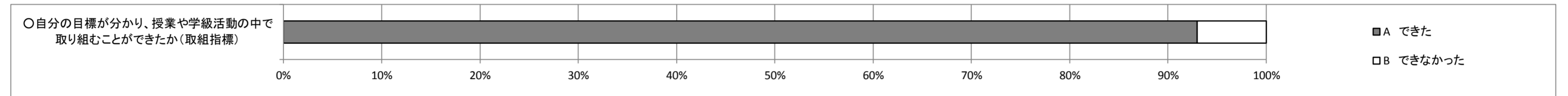
項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準			判定基準	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導 —高等部—	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部 職業・作業 部 生徒	ICT機器を活用した授業は、分かりやすかったか。 (満足度指標)	A	69	97%	達成 回答者のAと判断した割合が80%未満の場合は、Bの内容を検討し、授業内容や生徒への評価のフィードバックを検討する。	ほとんどの生徒が「ICT機器を使った授業が分かりやすかった。」と回答した。授業の内容について映像で確認したり、iPadを使って自分で調べたりするなど、学習に取り組みやすかったようである。	今年度は、生徒一人に1台のiPadが割り当てられた。個々の学習内容に応じたアプリケーションを導入するなど、学校資産としての整理が必要となる。
			【目標指数】 ICT機器を活用した学習理解の目標指数(Aが80%以上)	B	2	3%			
			無	0					



A 分かりやすかった理由(複数回答)	
「iPad」を使った勉強	57
「ビデオ」を使った勉強	4
「写真」を使った勉強	6
「コミュニケーションボード」を使った勉強	1
「プリント」を使った勉強	1
「その他」	

H29 学校評価総合シート 生徒

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準			判定基準	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導 —高等部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	高等部 職業・作業 グループ 生徒	自分の目標が分かり、取り組むことができたか。(取組指標)	A	66	93%	達成	クラスで自分の目標を考えたり、作業学習の始めに今日の目標を考えたりした。多くの生徒が自分の目標を意識していることが確認できた。今年度は「目標を忘れてしまった」と回答した生徒が少なかったため、一人一人が意識できていたようである。	教室に目標を掲示する、授業の始めに確認するなどして、自分で目標を意識できるように工夫をしていきたい。また、目標に対して、自分で評価する時間も大切にしたい。
			【目標指数】自分の目標に関する取り組みの目標指数(Aが80%以上)	B	5	7%			
				無	0	0%			



A できた内容(複数回答)	No.	B できなかった内容(複数回答)	No.
自分の目標として、自分からあいさつをすることに取り組んだ。	6	先生や家族と話し合わなかった。	
自分の目標として、はきはまと受け答えをすることに取り組んだ。	2	目標を知らなかった。	
自分の目標として、わからないときは、自分から質問をすることに取り組んだ。	3	目標を忘れた。	
自分の目標として、言葉遣いに気を付けて丁寧に話すことを取り組んだ。	4	目標がむずかしくてできなかった。	
自分の目標として、嫌なことがあっても自分の気持ちを切り替えることに取り組んだ。	2	やりたい目標ではなかった。	
自分の目標として、友達の気持ちを考えて、仲良くかかわることに取り組んだ。	1	取り組みたくなかった。	
自分の目標として、自分の気持ちをきちんと相手に伝えることに取り組んだ。	2	何をしたらいいか、どうしたらいいかわからなかった。	1
自分の目標として、早寝早起きをすることに取り組んだ。	4	自分ひとりだときんちょうして、できなかった。	
自分の目標として、好き嫌いしないでバランスよく食事することに取り組んだ。	3	授業をあまりでれていないから、目標を忘れてしまった。	1
自分の目標として、運動をして体力を付けることや体重増加に気を付けることに取り組んだ。	5	挨拶と返事ができなかった。目標だったけどなかなかできなかった。	1
自分の目標として、身の回りの整理整頓や身だしなみに気を付けることに取り組んだ。	3	人がいると緊張するから。	1
自分の目標として、時計を見て行動したり、時間の使い方を考えたり、遅刻しないように行動したりすることに取り組んだ。	3	目標が決まらなかったから。	1
自分の目標として、予算をたてて一人で買い物することに取り組んだ。	1		
自分の目標として、料理や洗濯などできるだけ家事をすることに取り組んだ。	1		
自分の目標として、バスなどの公共交通機関を使って、学校や実習先に通うことに取り組んだ。	4		
自分の目標として、余暇の時間に好きなことを見つけ、過ごすことに取り組んだ。	1		
自分の目標として、時間いっぱい集中して作業や勉強をすることに取り組んだ。	5		
自分の目標として、いろいろなことに挑戦することに取り組んだ。	1		
自分の目標として、学級活動や委員会活動、部活動などで自分から積極的に行動することに取り組んだ。	3		
自分の目標として、忘れ物をしないようメモを取るなどの工夫をすることに取り組んだ。	2		
失敗することで次に同じ課題が出たときに直せた。	2		
声の大きさ	1		
パーソナルスペースを守った	1		
苦手なこと一生懸命取り組んだ	1		
落ち着いて対応した	1		
国語と体育がわかりやすかった	1		
わからなかったこと(できなかったこと)がわかるよう(できるよう)になった。	1		
作業で丁寧にすること。	1		
カッティングで100本切る。	1		

H29 学校評価総合シート 保護者

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準			判定基準	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。	小学部保護者	授業公開日の様子や日々の連絡帳、指導計画の評価などからみて、子どもの思いや実態に沿った指導が行われていたか。(満足度指標)	A	23	74%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、児童の指導の在り方についてや保護者への伝え方について学部全体で検討する。	保護者懇談会を通して個別の教育支援計画や個別の指導計画について保護者と話し合いを深め、共通理解を持つように努めた。また、日々の連絡帳や話し合い、授業公開等を通して児童の様子を丁寧に知らせることで、指導に対する理解を得られたと思われる。
			【目標指数】子どもの思いや実態に沿った指導の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	7	23%			
	C	1	3%						
	D	0							
	無	0							
—小学部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	小学部保護者	子どもの将来の姿を意識した目標や支援方法についてクラスの教員と話し合い、理解を深めることができたか。(満足度指標)	A	14	45%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、子どもの将来の姿について、保護者への伝え方を検討する。	児童の現在の状況を踏まえ、小学部高学年や中学部など将来に向けての話し合いを保護者と十分に持ち、それを踏まえた指導目標や支援方法について共通理解を持つことができた成果であると思われる。
	【目標指数】子どもの将来の姿について話し合っ理解を深める目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	17	55%					
		C	0						
		D	0						
		無	0						
教育課程 ・ 学習指導	生徒の思いや実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組む。	中学部保護者	授業公開日の様子や指導計画の支援方法などからみて、子どもの生活年齢や発達状況に沿った指導が行われていたか。(満足度指標)	A	20	69%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生徒への指導のあり方や保護者への伝え方などについて各課程及び学部全体で検討する。	保護者懇談会を通して個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標や支援方法について、保護者と話し合いを深め、共通理解を持った。また、連絡帳や送迎時を利用して日々の様子を伝え、保護者との意思疎通及び連携に努めた成果であると思われる。
			【目標指数】子どもの状況に沿った指導の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	9	31%			
	C	0							
	D	0							
	無	0							
—中学部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	中学部保護者	将来の姿を意識した目標や支援方法について、クラスの教員と話し合いができたか。(満足度指標)	A	12	41%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者への伝え方を検討する。	連絡帳や送迎時を利用して生徒の様子を伝えたり、限られた時間の中で丁寧な懇談を行ったりして保護者と生徒の様子を共有した。また、授業公開日には、多数の保護者が授業を参観し、生徒の学校での様子について理解を深めた成果であると思われる。
	【目標指数】将来の姿を意識した目標設定や支援方法の話し合いの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	14	48%					
		C	3	10%					
		D	0						
		無	0						
教育課程 ・ 学習指導	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部保護者	学校でICT機器を活用していくことは、子どもの将来の自立や主体的な活動に向けて役に立っていくか。(満足度指標)	A	51	61%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、ICT機器の活用事例について保護者に紹介する。	ICT機器を活用することは、概ね同意を得られる結果となった。学習の場面だけでなく、生活の支援ツールの一つとしてICT機器が活用できると考える。
			【目標指数】ICT機器の活用に関する目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	30	36%			
	C	3	4%						
	D	0							
	無	0							
—高等部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	高等部保護者	将来の姿を意識した目標や支援方法について、クラスの教員と話し合いができたか。(満足度指標)	A	45	54%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者懇談会や授業の内容について検討する。	保護者懇談会を利用して、生徒一人一人に必要な学習内容を検討した。また、将来の進路についての内容は、進路相談会を設定して共通理解を図った。これらの取組を通して、理解を得られたと思われる。
	【目標指数】将来の姿を意識した目標設定や支援方法の話し合いの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	34	40%					
		C	4	5%					
		D	1	1%					
		無							
生活の指導 —舎務部—	生徒の特性や実態を把握し、生徒が当番や係などの自治会活動を主体的に取り組めるように支援方法を工夫する。	寄宿舎生の保護者	保護者懇談会や連絡帳などを通して、当番や係などの自治会活動の様子を知り、子どもの成長を感じることができたか。(満足度指標)	A	30	65%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者への伝え方を検討する。	保護者懇談会や連絡帳を通して詳細に保護者へ伝えたことで、活動の様子を知ることができ、保護者の理解が得られたと思われる。しかし、舎では家庭生活に直接つながらない活動もあるため、保護者への伝え方を工夫できるとよい。
			【目標指数】主体的な自治会活動の取り組みの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	15	33%			
	C	0							
	D	0							
		無	1	2%					

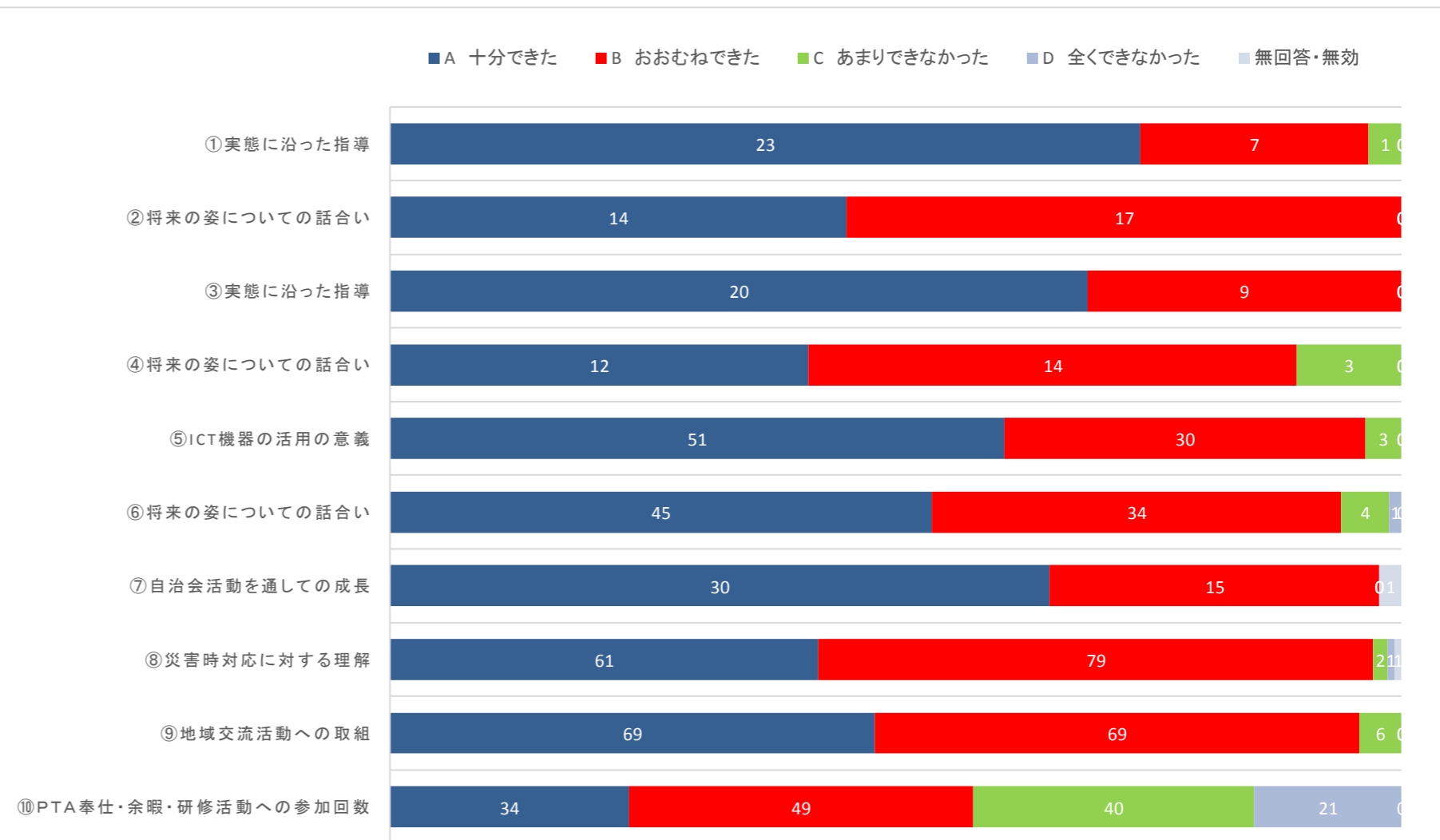
※パーセンテージは、小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

H29 学校評価総合シート 保護者

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
危機管理 (学校全体)	保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。	保護者	災害時訓練（メール受信・引き渡し訓練など）や「防災だより」等を通して、災害時対応に対する理解を深めることができたか。（満足度指標）	A	61	42%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者に対して取り組んだ内容等の周知を図る方法を再検討する。	昨年度に引き続き小・中学部対象の災害引き渡し訓練を行った。また、今年度初めて緊急メールを利用した高等部対象の災害引き渡し訓練を行った。その他、「防災だより」「学校ホームページ」による情報提供に努めたことにより、目標指数の達成につながったと考える。
			【目標指数】保護者の危機管理に関する理解啓発の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	79	55%		
				C	2	1%		
				D	1	1%		
				無	1	1%		
交流促進 (学校全体)	地域の小中学校、高等学校、企業等との交流活動に取り組む。 (交流活動=居住地校交流、学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流など)	保護者	学校は、地域との交流活動（学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流、居住地校交流等）に取り組んでいるか。（満足度指標）	A	69	48%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者に対して取り組んだ内容等の周知を図る方法を再検討する。	地域の小・中学校、居住地校、テクノパーク福井等との交流活動に積極的に取り組んだ。それらの交流活動を「学校ホームページ」や「学部便り」で紹介するなどしてきたことにより、目標指数の達成につながったと考える。
			【目標指数】児童生徒の地域での交流活動推進の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B	69	48%		
				C	6	4%		
				D	0			
				無	0			

PTA活動アンケート (学校評価アンケート付属)

回答者	観 点	判断基準		
全保護者	PTA活動に何回参加できたか。[総会、役員会、夏休み親子の日、交流レクリエーション、除草作業、学校行事準備、教育視察、子育て講座、ボウリング大会、県知P連活動等]	A	34	24%
		B	49	34%
		C	40	28%
		D	21	15%
		無	0	



H29 学校評価総合シート 教職員

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
教育課程 学習指導	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。	小学部 教員	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりができたか。(取組指標)	A 3 14%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、児童の実態把握や授業の在り方について学部全体で検討する。	児童の障害特性や発達段階、興味・関心を把握し、指導目標や指導内容についてクラスの教員で十分な話し合いを持った。また、児童が主体的に活動できる教材や場の設定、かかわり等の学習環境づくりに取り組んだ成果だと思われる。	今後も児童の実態を的確に把握し、障害特性や発達段階に合った目標を設定していきたい。また学部全体で共通理解を図りながら教材や指導内容、かかわり方を工夫し、児童の主体性を引き出していきたい。
			【目標指数】児童の実態把握や授業づくりの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 17 81%				
無	0							
C 1 5%								
D 0								
—小学部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	小学部 教員	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深め、授業等に生かすことができたか。(成果指標)	A 1 5%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	授業参観や縦割研究会を通して他学部の取組を知り、指導内容表を検討することで小・中・高のつながりを確認した。縦割研究会で得た意見をもとに指導内容や学習環境等について自分の授業を振り返り、見直した成果であると思われる。	今後も他学部の授業参観や研究会を通して小・中・高のつながりについて協議し、その中で得られたことを自分の授業実践に生かしていきたい。また、今年度検討した指導内容表を生かし、将来を見据えた指導をしていきたい。
			【目標指数】学部間の連携を深め、授業に生かすことの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 19 90%				
無	0							
C 1 5%								
D 0								
教育課程 学習指導	生徒の思いや実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組む。	中学部 教員	生徒の思いや実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組むことができたか。(取組指標)	A 10 48%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生徒の実態把握や授業の在り方について各課程及び学部全体で検討する。	クラスの教員や授業担当者で、生徒の思いや実態について十分に話し合い、生徒の生活年齢や発達状況を意識しながら指導目標や指導内容を考えた。授業を行う際には、生徒一人一人の目標を意識しながら授業づくりに取り組んだ成果だと思われる。	今後も生徒一人一人の思いや実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況を意識しながら、担当で指導目標や指導内容について十分に話し合いをし、授業づくりに取り組んでいきたい。
			【目標指数】生徒に合った授業づくりの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 11 52%				
無	0							
C 0								
D 0								
—中学部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	中学部 教員	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深め、授業等に生かすことができたか。(成果指標)	A 5 24%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	授業参観や縦割研究会を通して他学部の取組を知り、指導内容表を検討することで小・中・高のつながりを確認した。縦割研究会で得た意見をもとに指導内容や学習環境等について自分の授業を振り返り、見直した成果であると思われる。	今後も他学部の授業参観や研究会を通して小・中・高のつながりについて協議し、その中で得られたことを自分の授業実践に生かしていきたい。また、今年度検討した指導内容表を生かし、個に合わせた自立に向けての指導をしていきたい。
			【目標指数】学部間の連携を深め、授業に生かすことの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 15 71%				
無	0							
C 1 5%								
D 0								
教育課程 学習指導	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部 教員	授業や生活指導の中でICT機器を活用することができたか。(成果指標)	A 16 37%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、ICT機器の活用について研修をする。	ここ数年、学習にICT機器を活用することが増えてきているため、昨年度に続いてスクールプランの重点目標として取り上げた。視覚的に情報を得られること、自分で操作して学習が進められることなどから、生徒も理解しやすいようである。	授業の中でICT機器を使った学習を進めてきた。調べ学習や自分の行動の振り返りに活用するなど、有効な事例を積み重ねていきたい。操作以外の観点からは、情報モラルについての学習も必要のため、学習の中に組み入れて進めていきたい。
			【目標指数】ICT機器の活用の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 22 51%				
無	0							
C 5 12%								
D 0								
—高等部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	高等部 教員	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深め、授業等に生かすことができたか。(成果指標)	A 14 33%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	授業参観や縦割研究会を通して他学部の取組を知り、指導内容表を検討することで小・中・高のつながりを確認した。縦割研究会で得た意見をもとに指導内容や学習環境等について自分の授業を振り返り、見直した成果であると思われる。	今後も他学部の授業参観や研究会を通して小・中・高のつながりについて協議し、その中で得られたことを自分の授業実践に生かしていきたい。また、今年度検討した指導内容表を生かし、自立に向けた指導をしていきたい。
			【目標指数】学部間の連携を深め、授業に生かすことの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 22 51%				
無	0							
C 7 16%								
D 0								
生活の指導 —舎務部—	生徒の特性や実態を把握し、生徒が当番や係などの自治会活動を主体的に取り組めるように支援方法を工夫する。	寄宿舎 指導員	当番や係などの自治会活動を主体的に取り組めるように共通理解を持ち、情報交換をしながら支援することができたか。(取組指標)	A 20 80%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、共通理解や情報交換の方法を検討する。	毎日の引き継ぎや各階での会議、事例研究会での情報交換など、共通理解を図る機会を設けたことで、目標を達成できたと思われる。	各階では舎生が主体的に自治会活動に取り組む支援ができたが、舎全体でも共有できるように情報交換の場を多く設ける等の工夫をしていきたい。
			【目標指数】主体的な自治会活動に向けた支援の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 5 20%				
無	0							
C 0								
D 0								
寄宿舎 指導員	舎生は当番や係などの自治会活動を主体的に取り組むことができたか。(成果指標)	寄宿舎 指導員	舎生は当番や係などの自治会活動を主体的に取り組むことができたか。(成果指標)	A 19 76%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、支援の方法を検討する。	各階での情報共有を積極的に行ったことが、具体的な取組方法の周知につながり、集団や個々に応じた支援が活性化した。また、舎生自身が考える場面や舎生同士で話し合う場面を設けたことで、目標を達成することができたと思われる。	各階での取組は概ね達成できたが、舎全体にかかわる自治会活動について舎生が理解して取り組むため、活動方法をさらに見直して工夫していきたい。
			【目標指数】主体的な自治会活動参加に対する目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 6 24%				
無	0							
C 0								
D 0								

※パーセンテージは、小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

H29 学校評価総合シート 教職員

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
危機管理 (学校全体)	情報管理・不審者対応も含めた危機管理体制を整備するとともに、個々の役割について理解を深める。	全教職員	危機管理に関する研修・訓練を通じて、緊急時の自分の役割についての理解を深めることができたか。(成果指標) 【目標指数】危機管理における個々の役割理解の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 62 49% B 62 49% C 2 2% D 0 無 0	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。	小・中学部引き渡し訓練・火災想定避難訓練・緊急地震速報を使った避難訓練・不審者対応マニュアルの整備を行った。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。	次年度についても、危機管理マニュアルを検討しながら、実践的な訓練に取り組んでいきたい。
	保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。	全教職員 (事除く)	学校は、保護者に「防災だより」や「学校ホームページ」等を通して、危機管理に関する取組の情報提供ができたか。(成果指標) 【目標指数】保護者の危機管理に関する情報提供の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 57 50% B 53 46% C 4 4% D 0 無 0	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。	学校で行われた避難訓練等の内容を紹介する「防災だより」を年間に4回発行するとともに、「学校ホームページ」でも情報提供に努めた。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。	引き続き防災意識の向上を図るために「防災だより」を発行して、保護者および教職員への啓発を行っていきたい。
交流促進 (学校全体)	地域の小中学校、高等学校、企業等との交流活動に取り組む。 (交流活動=居住地校交流、学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流など)	全教員 (養栄、舎、事除く)	地域との交流活動(学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流、居住地校交流等)に取り組んでいるか。(取組指標) 【目標指数】児童生徒の地域での交流活動推進の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 40 46% B 42 48% C 4 5% D 0 無 1 1%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。	昨年度に引き続き、各種交流に加え、県の事業による「学校間交流」に取り組んだ。居住地校交流では、希望する児童生徒が地域の学校と交流を行うことができた。また、交流相手校(小中学校)の児童生徒を対象に、本校の紹介や障害理解のための研修を行った。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。	共生社会の形成に向けて、地域との交流活動を継続しつつ、今後とも地域の方々の理解を深められるよう工夫をしていきたい。

■ A 十分できた ■ B おおむねできた ■ C あまりできなかった ■ D 全くできなかった ■ 無回答

